

日時：令和1年7月25日（火）20：00～

場所：ふれあい歯科ごとう

出席者（敬称略）：五島、羽賀、豊田、佐藤（雅英）、矢作、齊藤

（新宿区で薬剤＋栄養の問題を抽出）100例を設定

薬剤師＋ケアマネジャーで同一症例を調査

1. 食事摂取状況調査票：第3稿

（各項目についての検討）ケアマネさん目線でも聞いてみたい。

【ポイント】薬局：地域での生活、入院時のスクリーニングではないところ。

ケアマネジャーと共同で行っている利用者とする。調査票はケアマネジャー、薬剤師各々で同じ利用者でとる。ケアマネジャーと薬剤師の認識が違う。

【研究題名】

新宿区における在宅療養高齢者の食事摂取状況と服用薬に関する調査

【研究の目的及び意義】

目的：新宿区における在宅療養高齢者の食事摂取状況を調査し、ポリファーマシー等の問題が食事の質や量、生活環境に、どのように影響しているかを明らかにし療養支援の具体的な介入方法の一助とする。

【分担研究者】新食研ワーキンググループのメンバー

【情報管理責任者】齊藤でよい

【研究計画の概要】新宿食支援研究会のワーキンググループで作成した生活背景の調査票にもとづき、食事摂取状況に問題がある方を集めて、生活環境と処方情報の要因解析を行う。

P：研究参加者が介入する新宿区内の在宅療養高齢者

E：新宿食支援研究会の薬局ワーキンググループにおいてICFを参考に作成した（生活機能状況に）調査票をもとにアンケートを実施（●●項目）、その内容を要因解析し、当事者の生活機能や療養環境そして処方薬が食事摂取の問題とどのように結びついているのか検証する。

【研究期間】1年：2019年の…開始日はできたら確定

【本研究の対象者、人数および算出方法】

エリア、アンケート項目数などで、有意差を出すための計算方法がある（要因解析なので）
「保険薬局が介入する」在宅療養患者と

【ポイント】新食研として出したい、食支援に関すること、複数薬局の合同、

【次回までの宿題】

→この2週間で研究のための研修を受けてきます（齊藤）

→本を引っ張り出して有意水準の算出方法を計算してみる（豊田）

→調査対象を「ざっくり」抽出してみる

【調査票の見直し】～理由と「考えられる」背景：あくまで僕らで考えたもの（説明いるね）
次回、この会「齊坊主ウイング（仮）」R1. 9月5日（木）20：00～